

第 19 回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか
道路改築工事に関わる河川河口の環境アドバイザー会議
(令和 6 年 3 月 12 日開催)

主な意見・指摘事項と対応について

1. 第 18 回アドバイザー会議 指摘事項の確認

意見・指摘事項	対応
♦ 意見なし	—

2. 令和 5 年度定期環境モニタリング調査（秋季・冬季）の結果について（1/2）

意見・指摘事項	対応
< 地形 > ♦ 干潟調査の横断図について、橋脚位置にある No.10 +40m で直接水準測量が出来ていないのであれば、横断図で測量線を繋げることをせず、欠測扱いにすべきである。 ♦ 20m ピッチで直接水準測量しており、地点間を直線で結ぶと実際の地形とは異なり、誤解を招く。直線で結ぶことはせず、点で表現するなど修正すべきである。直接水準測量は、音響探査器で測量した結果の補足として位置づけた方が良い。	♦ 承知いたしました。誤解を招かないような表現に修正いたします。
< 植物 > ♦ ヨシ群落草高調査の地点位置図について、実際の調査範囲を誤解されないような表現に修正した方が良い。	♦ 承知いたしました。誤解を招かないような表現に修正いたします。
< 鳥類 > ♦ 確認種の個体数の変化については、全国的な傾向と同様であるため、橋梁が架設された影響では無いと考えて良い。	♦ 承知いたしました。
♦ 秋季のカモメ類の結果をみると、橋梁付近で飛翔経路が蛇行しているケースが幾つかみられる。橋梁部を避けている結果と考えて良いか。	♦ 記録を確認いたします。 (記録を確認した結果) ♦ 今回確認された橋梁部で蛇行した飛翔は、「餌を探すため」もしくは「橋梁部を避けるため」のいずれかと考えられますが、絞り込むまでの情報は得られていませんでした。
< 底生生物 > ♦ 調査手法には目視観察を含む旨を記載すること。	♦ 承知いたしました。
♦ ミズヒキゴカイの同定は困難であり、今後慎重に行った方が良い。	♦ 承知いたしました。
♦ 本調査箇所を確認されるカワゴカイ属は全てヤマトカワゴカイであると推定される。資料中でヤマトカワゴカイとカワゴカイ属の表記が混在しているため、実態を鑑みて注釈を付けるなど対応した方が良い。	♦ 承知いたしました。カワゴカイ属の表記でとどめている箇所には、全てヤマトカワゴカイと推定される旨を注釈で付すことにいたします。

第 19 回 都市計画道路殿町羽田空港線ほか
道路改築工事に関わる河川河口の環境アドバイザー会議
(令和 6 年 3 月 12 日開催)

2. 令和 5 年度定期環境モニタリング調査（秋季・冬季）の結果について（2 / 2）

意見・指摘事項	対応
<底質> 埋め戻し箇所は、細砂・中砂が維持されていると考えて良い。	—
<参考資料> 底質分析結果の表題は、本表が干潟以外の部分も含まれるため、表現を変えた方が良い。	承知いたしました。

3. 令和 5 年度環境モニタリング調査報告書

意見・指摘事項	対応
浚渫箇所の埋め戻し効果について、「令和 6 年度も引き続きモニタリング調査を継続する」という文章に「底生生物や底質の変化にも着目し」という語句を追加し、これらの変化に着目して調査することを強調した方が良い。	承知いたしました。ご指摘の点を踏まえ、文章を修正いたします。

4. 令和 6 年度事後調査計画

意見・指摘事項	対応
これまでの調査結果より「橋脚の地形変化」及び「橋梁架設に伴うヨシ群落の変化」という大きく 2 つの点が浮かび上がってきた。令和 6 年度の調査では、これら 2 つの点に焦点を当て、軽重を付けた調査を実施するのが良いと考える。	承知いたしました。ご指摘の点を踏まえ、調査内容を検討いたします。
橋梁下のヨシ群落は川に近づくために一般人の侵入があり、ヨシ群落の生物に影響が生じていると考えられるが、その影響をどのように評価するか検討が必要である。	承知いたしました。ご指摘の点を踏まえ、事業影響評価を検討いたします。
底生生物の目視調査については、一般人が調査しても同じ成果が再現できるようになると良く、努力量を提示できると良い。	承知いたしました。目視調査の努力量を示すようにいたします。

5. その他

意見・指摘事項	対応
アドバイザー会議資料や年度報告書をそのままホームページ上に掲載しても、一般市民が内容を理解することは困難であるため、情報の公開方法は工夫して欲しい。	承知いたしました。一般市民が理解しやすい情報公開の方法を検討いたします。

以 上